
令和7年度 第2回豊田市上下水道事業審議会 会議録

【日時】 令和8年3月26日（木） 午後1時30分～午後3時10分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

- 【次第】
- 1 会長あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 豊田市水道事業の概要 【資料1】
 - (2) 矢作川流域の上下水道の広域連携について 【資料2】
 - 3 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員>

竹内 信仁（名古屋大学名誉教授）	※会長
中山 恵子（中京大学経済学部教授）	※副会長
神頭 広好（愛知大学名誉教授）	
二宮 謙治（豊田信用金庫専務理事）	
和泉 まり子（豊田商工会議所女性会会長）	
深津 浩彦（豊田市区長会理事）	
安井 新弘（豊田市小中学校長会）	
川合 寿人（豊田森林組合代表理事組合長）	
鈴木 ひとみ（あいち豊田農業協同組合女性部部長）	
増田 比呂子（足助地域会議委員）	
城金 茂樹（公募委員）	

<事務局>

前田 雄治（豊田市事業管理者）	
杉山 勝浩（上下水道局長）	
中根 武人（上下水道局副局長）	
中川 啓二（上下水道局事業担当専門監）	
広瀬 誠（上下水道局総務課長）	
新岩 康正（上下水道局企画課長）	
太田 昌男（上下水道局料金課長）	
中根 章（上下水道局水道整備課副課長）	
國枝 圭介（上下水道局水道維持課長）	
浦野 大一郎（上下水道局上水運用センター所長）	
河合 保幸（上下水道局下水道施設課長）	
神谷 幸利（上下水道局下水道建設課長）	
愛知 史康（上下水道局経営管理課長）	
杉山 由佳（上下水道局経営管理課副課長）	
小島 弘一（上下水道局経営管理課主査監）	
池田 浩司（上下水道局経営管理課担当長）	

- 竹内 晨（上下水道局経営管理課主査）
鷹見 麻菜（上下水道局経営管理課主事）
【欠席者】 <委員> 松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校教授）
樹神 康之（豊田商工会議所第一工業部会部会長）
山田 雄三（豊田加茂薬剤師会副会長）
西尾 方宏（下山地域会議委員）
三江 元博（稲武地域会議会長）
加藤 有花（公募委員）
【傍聴者】 なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・豊田市では4年に1回水道料金の見直しを行っており、前回は令和4年度のため、令和8年度に見直しを控えている。
- ・本日はその前段として豊田市の水道事業の現況を皆様にお知らせするため、勉強会という趣旨でお集まりいただいた。

2 議事

（1）豊田市水道事業の概要

○A委員

- ・水道料金の見直しにあたり、高齢者の単身世帯に対する配慮はあるか。

○事務局

- ・水道料金の基本線として、使った分だけそのサービスの対価として料金を負担していただくという仕組みになっている。所得は水道料金に関係ない要素となっている。

○A委員

- ・逓増性の緩和について、高齢者の単身世帯は少量の水しか使わないと思う。年金生活者が多い中で、そういった方への配慮があれば豊田市の福祉施策の一つになるかもしれない。生活に水は必要であることから、高齢者が安心して水を使えるような仕組みを検討していただけたらと思い質問した。

○事務局

- ・現状の逓増性の仕組みで言うと、少量使用者の方は他の区分よりも安価な料金設定にしている歴史がある。逓増性の緩和については、次年度以降の審議会でしっかり議論していきたい。

○B委員

- ・以前に太田市長と岸田首相がお話されている機会があり、地面を掘らなくても漏水箇所が確認できるシステムがあると聞いた。学校の中ではどこで水漏れがあるのか確かめることが難しいのでアドバイスがあればお伺いしたい。

○事務局

- ・岸田首相の来訪時には人工衛星のデータを使った漏水調査の説明をした。人工衛星

のデータはピンポイントで出すことができないため、学校の中を特定するのは難しい。また、施設内は上下水道局では立ち入れないことから、漏水箇所の確認は水道工事店が地道に音で漏水を探していただくのが一番確かではないか。

○会長

・岸田首相からはどのような話があったか。

○事務局

・豊田市の先進的な取組を全国に普及させていくべきという話だった。

○会長

・そういったシステムがあるならもっと活用した方がいいのではないか。

○事務局

・市で構築したシステムではないため、民間の技術を維持管理に波及させていくもの。

○A委員

・データを示す際は、数字の出所、出典、根拠を示して欲しい。

○事務局

・承知した。

○A委員

・60ページの「物価高騰による営業費用の増加」の中で、受水費が令和10年度に上がっているが、企業庁から買う水のことか。

○事務局

・そのとおり。

○A委員

・これくらい上がることが見込まれるということか。

○事務局

・前回の料金の見直しの際、愛知県営水道の値上げが料金の見直しをした後に決まったため、この影響を受け令和8年度予算が赤字となっている。豊田市は80%を愛知県営水道に依存しており、値上げ前と比較すると2億円から3億円近く受水費が上がっているため、ある程度の見通しをたてておく必要があると考えている。

○C委員

・豊田市の場合は工業中心の工業都市で水道は工業用水を使うと思うが、逡増性の緩和により、これを一律にすると豊田市の場合は特に市民への負担が増えて、逆に大企業が得をするように思うがどうか。

○事務局

・市が提供しているのは生活用水で、仮に単価を一律にすれば少量使用の方の負担率が一気に上がることになる。総収入額を変えないとすればどこかの区分で減った分を別の区分で負担する料金構造のため。

ただ、逡増性の緩和を一度に行うのは厳しいため、今後、考え方を示しし丁寧に説明していきたい。

○D委員

- ・従量料金の逡増性の導入については、利用者の特性、所得段階、高齢者が多い家庭など世帯の特徴や使用頻度などの調査に加え、自然環境（水の供給可能量）も考慮して逡増度を定めることが重要ではないか。

○事務局

- ・分布図や世帯構成は情報として把握しているが、所得の情報は持ち合わせていない。それは所得ではなく、使った分をご負担いただくという原則に沿っているからです。また、逡増性においても、累進性と逆進性の両視点に注意するよう会長からご助言をいただいている。次年度以降その部分もしっかりお示ししたい。

○D委員

- ・豊田市のように広域で長野県に接しているところもあれば、都市化しているところもある。都市化しているところだけで議論するならよいが、全体を通してとなると難しいのではないか。

○事務局

- ・人口分布が中山間部は少ないがそれでも施設は必要。分布図によってはコストの違いはあるが現在はオール豊田市として経営をしているため、全体として考えていく。

○A委員

- ・先日、移動型のタンク車で給水する方法があると新聞で読んだが、どのようなことが教えていただきたい。

○事務局

- ・国が示す分散型水道提供システムで、人口減少が全国的な課題である中、需要量に応じた施設規模にダウンサイジングすることや水を給水車で運ぶことを規模感に応じてうまく組み合わせる仕組みのこと。単純に給水車で運べば安くなるかどうか、どちらが効率的か、コスト面など比較しなければわからない。

(2) 矢作川流域の上下水道の広域連携について

○A委員

- ・事業統合までにどれくらいのタイムテーブルを考えているか。

○事務局

- ・まずは経営統合を成してから必要に応じて事業統合を議論していく状況です。

○A委員

- ・経営統合はいつ頃か。

○事務局

- ・経営統合もまだ具体的に示されていないため協議会での議論となる。

3 事業管理者あいさつ

- ・本日は、次年度以降の料金改定を考える上での事前状況説明であり、料金水準や料金体系については今後現実的な話として取り組んでいく。
- ・逡増性の緩和については基本的な考え方（算定要領に記載あり）であるため反することはできない。これをベースに来年度は議論していただきたい。

- ・本市の最近の水道事業では、日々漏水等の事案も起こっており、職員が緊急対応をしている。
- ・投資についてはほぼ計画どおりに進んでいるものの、一方で物価高騰の影響が大きくなっている。
- ・本日の説明で経営が厳しいという説明の一方で、ヒト、モノ、カネの経営資源を活用しながら広域化、DXの取組で効率化も図っている。令和7年は人工衛星のデータを使用した漏水調査の取組がブラチナ構想ネットワークで総務大臣賞、また、上下水道の給排水申請システムは西三河5市と共同で構築を行い、国土交通大臣賞の受賞という明るい話題もあった。
- ・前回の料金改定では、コロナ禍とウクライナ侵攻により電気代が上がる想定の中で、当審議会として段階的な改定としました。今回は物価高騰とイラン情勢のようなことに見まわられている中での改定となるため、来年度皆様としっかり議論して、当審議会としての答申を頂戴したいと思っている。

午後3時10分終了